



# 学校だより

11月号

令和 2年 11月 6日  
横浜市立 善部小学校  
校長 福田 美穂

## 心を一つに

学校長 福田 美穂

10月31日、雲一つない秋晴れの中、今年度初めての全校行事、善部スポーツフェスティバルを実施しました。土曜日でも子どもたちのために校門まで送ってくださった黄色いベストさんたちや私に弾んだ明るい声で元気にあいさつをする子どもたち。その顔からは、緊張と楽しみと全力を出し切るぞという意気込みが感じられました。

スマイル班の班長としての役割がある6年生はその責務を意識しながら、登校時からあわただしく、しかし生き生きと活動していました。1年生の椅子を運びながら言葉を交わし、うきうきしている1年生の気持ちを先輩として温かく見守っていました。

今年は、低・中・高学年の団体演技が中心のプログラムとしました。1, 2年生は、ディズニーソングに合わせてリズムよく飛び跳ねながらのダンス。見ている以上にやってみると激しいダンスですが、子どもたちは最後まで元気よくこやかにできました。練習が苦手だった子も、当日は周囲と合わせながら一生懸命演技をしていました。

3, 4年生は、恒例のソーラン節。黒 T シャツに黒ハチマキで登場です。はじめの構えは腰が低く、とても勇ましい感じが出ていました。動きだけでなく掛け声もそろい、力強く体を動かすソーラン節は、4年生がお手本になりながら作り上げた演技です。3年生は、来年の自分の姿を描きながら練習に励んだに違いありません。

5, 6年生の飛翔は、時には力強く、時にはしなやかに全身をバランスよく動かすマ스ゲームです。手のひらの向き、体を倒すタイミング、曲に合わせた方向転換など一つ一つの動きを何度も練習していました。始めは個々の動きを高めることに意識が向いていましたが、「息を合わせる」ことがこの演技の肝であると理解し、すべての感覚を働かせながら練習を重ねて「心が一つ」になり、あの素晴らしい演技に仕上がったと思います。さらに、本校ならではの「6年生親子二人三脚」も行い、善部小の家庭の温かさを全校に示していただきました。これはずっと続けていきたい競技です。

どの学年の演技も練習の成果を十分に発揮しており、鳥肌が立つくらい感動しました。私たち教職員は、うまく動けない、気持ちが一つにならない状態を知っているからこそ、高めるための過程を大切にしてきたからこそ、その感動も大きく、こんな思いをさせてくれた子どもたちに感謝しています。

また、3色の応援団、リレーの選手の活躍。5, 6年生の運動会を支える熱心な仕事ぶり。紙面に書ききれないほど多くの頑張りが見られました。この行事で発揮した力は、個々の子どもに大きな成長を促し、生活や学習に生かされると確信していますし、今後の子どもたちの姿にも期待しています。

この善部スポーツフェスティバルが大成功に終わったのも、保護者、地域の皆様のご理解、協力のおかげです。本当にありがとうございました。保護者1名の参観というのは大変心苦しい選択でありましたが、それでも皆さんからの大きな拍手や手を振っての応援で、子どもたちの気持ちを盛り上げてくださったことに、学校の全職員が感謝しております。学校と家庭と地域が一つになって子どもの成長を見守ることのありがたさをいつも以上に感じた善部スポーツフェスティバルでした。ZSFのスローガンは、「心を一つに 限界突破 勝利の扉へ つき進め」です。子どもたちが、お互いの気持ちを合わせ、心一つにして活動することを強く願い、決めたスローガンです。子どもたちの願いを学校・家庭・地域で一つ一つ実現していきたいです。今後ともよろしく願いいたします。